

# 記者配布資料

平成 28 年(2016 年) 2 月 22 日

所属名	所属長名	部局長名	担当者職・氏名	連絡先
山口県立大学	学長 ながさか ゆうじ 長坂 祐二	附属地域共生センター 所長 か と だ けい こ 加登田 恵子	国際文化学科 学科長 あんけい ゆうじ 安溪 遊地	☎083-928-5496
発表内容の 関係地域	[ <u>全県</u> ]、岩国、柳井、周南、[ <u>山口</u> ]、防府、宇部、[ <u>山陽小野田</u> ]、下関、長門、萩、首都圏			

## 1 件名

第 25 回環境保全型農業フォーラム

## 2 趣旨

本学では、2013 年度に採択された文部科学省「地（知）の拠点整備事業（COC 事業）」の一環として、「やまぐち学」研究チームを構成し、県政課題である「コミュニティづくりや交流人口の増加」に対応して「有縁文化創生とまちづくり」等県民の生活の質（QOL）の向上に資する総合的な研究を行っています。

このたび、山口県環境保全型農業推進研究会と共同で、第 25 回環境保全型農業フォーラムを開催します。

基調講演には、「里山資本主義」共著者であり「報道ステーション」のコメンテーターとしても活躍している藻谷浩介氏を迎え、地域の過疎化・少子化と急激な高齢化が進む中で山口県の未来を拓く有機農業の可能性についてお話いただきます。（別添チラシ参照）

## 3 日時・場所

平成 28 年 2 月 28 日（日）10:30～15:30（開場 10:00）

不二輸送機ホール（山陽小野田市文化会館）

※申込不要。当日、資料代として 500 円いただきます。

## 4 プログラム

### ○事例発表

井上雄然氏（百姓庵 長門市油谷）

浜本康裕氏（浜本農園 周防大島）

### ○基調講演

藻谷浩介氏

（「里山資本主義」の共著者・報道ステーションコメンテーター・

（株）日本総合研究所 調査部 主席研究）

## 5 問い合わせ

山口県立大学 国際文化学科長  
「やまぐち学」研究代表  
安溪 遊地  
TEL : 083-928-5496 (研究室)



第25回 環境保全型農業フォーラム

里山資本主義 から見た

山口県の

有機農業の可能性

平成28年

2月28日(日)

10:00~15:30

基調講演：藻谷浩介氏

13:30~15:30

「里山資本主義」の共著者  
報道ステーションコメンテーター  
(株)日本総合研究所 調査部 主席研究員



事例発表1：井上雄然氏(百姓庵 長門市油谷) 10:40~

事例発表2：浜本康裕氏(浜本農園 周防大島) 11:30~

会場：不二輸送機ホール(山陽小野田市文化会館)

(JR厚狭駅南口すぐ)

資料代：500円

※近隣に食堂が少ないため、昼食のご用意をお願いします。

山口県って  
ホントになんにもないの?!  
無から有を生み出そう!!

主催：山口県環境保全型農業推進研究会+山口県立大学(文科省COC事業)

共催：有機ネット山口西部

後援：宇部市役所、山陽小野田市役所、JA山口宇部、FMサンサンきらら、(株)宇部日報社

問合せ先：090-2294-3843(守田)



## 開催にあたって

『里山資本主義』（角川書店）の共著者としてお馴染みの、（株）日本総合研究所の藻谷浩介氏をお招きし、今山口県が抱える地域の過疎化、少子化と急激な高齢化が進む中で、山口県の未来を拓く有機農業の可能性について、基調講演をいただきます。

山口県の魅力や豊かな自然などの地域資源を有機農業で活かすにはどうしたらよいか、貴重なお話がいただける機会となりますので、ふるってご参加ください！

## 〈藻谷氏プロフィール〉

1964年山口県徳山市に生まれる。平成大合併前の3,200市町村の99.9%、海外59カ国をほぼ私費で訪問し、地域特性を多面的に把握する。東大法学部卒業、日本開発銀行入行、米国コロンビア大学ビジネススクール留学、日本経済研究所出向などを経て、2000年頃から地域振興の各分野で精力的に研究・著作・講演を行う。2012年から現職。講演やテレビ出演多数。

2010年の『デフレの正体』（角川Oneテーマ21）は同年新書大賞2位、ベスト経済書3位。近著に『藻谷浩介さん、経済成長がなければ僕たちは幸せになれないのですか？』（学芸出版社）など。

## 当日プログラム

- 10:00 開場
- 10:30 主催者あいさつ
- 10:40 事例発表1： 井上雄然氏（百姓庵 長門市油谷）
- 11:30 事例発表2： 浜本康裕氏（浜本農園 周防大島）
- 12:20 お昼休憩
- 13:30 基調講演 藻谷浩介氏
- 15:30 終了

2002年に下関から油谷島に移住。30年以上空き家だった家を改築され、荒れた農地を開墾し、無いものは自分で作ることを基本とされる。8年前から塩づくりを始め、今や百姓庵といえは塩屋と言われるほど。最近、周りの農地が荒れ、人が減り、空き家が増える状況から、自給的農業からコラボレーション型環境保全農業を模索中。

2009年に兵庫県から周防大島に移住。有機農業で米、みかん、野菜を栽培。2012年に周防大島町議会議員に当選。今、話題の『島マルシェ』の仕掛け人のおひとり。島に移住した若者が中心となり、自然環境に配慮した店が集うこのイベントは、全国的にも注目を集めている。

## 会場地図

JR厚狭駅徒歩1分 電話番号 0836-71-1000



※COC事業とは

政府が推進する地方創世事業の一環として大学と地域が手を携えて活性化することをめざす文科省の「地（知）の拠点」事業として山口県立大学が実施している、「新やまぐち学」の一環として実施されるものです。

